



THE 80 WORKS

史上最強のジャズ・レーベル、ブルーノート創立80周年記念!
膨大なカタログからテーマ別に20作品ずつ厳選し、
高音質UHQ-CD仕様でリイシュー



第1回 2019.1.16 ON SALE モダン・ジャズ黄金時代

第2回 2019.2.13 ON SALE 新主流派の時代

第3回 4月発売予定 ハード・バップ誕生 **第4回** 5月発売予定 ニューノートの時代へ向かって

各**1,800円**
(税別)

・高音質UHQ-CD仕様 ・オリジナルLPライナーノーツの日本語訳付 ・新規ミニ・ライナーノーツ付
・ウェブサイト「BLUE NOTE CLUB」会員限定コンテンツへアクセス可能なシリアルコード封入

ブルーノート創立80周年記念コンピレーション。

アート・ブレイキー&ザ・ジャズ・メッセンジャーズからノラ・ジョーンズまで、80年の輝かしい歴史のなかで生まれた名曲・名演の数々を豪華収録！

ブルーノート・ナウ

DISC 1

1. モーニン / アート・ブレイキー&ザ・ジャズ・メッセンジャーズ
2. クール・ストラッティン / ソニー・クラーク
3. カンタローブ・アイランド / ハビー・ハンコック
4. ウン・ボコ・ロコ / バド・パウエル
5. チュニジアの夜 / ソニー・ロリンズ
6. ミッドナイト・ブルー / ケニー・バレル
7. ラヴ・フォー・セル / キャノンボール・アダレイ
8. ソング・フォー・マイ・ファーザー / ホレス・シルヴァー
9. モーメンツ・ノーティス / ジョン・コルトレーン
10. キャンディ / リー・モーガン

DISC 2

1. ドント・ノー・ホワイ / ノラ・ジョーンズ
2. リキッド・スピリット / グレゴリー・ポーター
3. ヒア・カム・ザ・ガールズ / トロンボーン・ショーティ
4. キャリー・オン / ノラ・ジョーンズ
5. カム・トゥ・マイ・ドア / ホセ・ジェイムズ
6. ノヴェケイン・ハート / キャンディス・スプリングス
7. ブラック・ホール / クリス・テイヴ&ザ・ドラムヘッズ
8. バルドー / ゴーゴ・ベンギン
9. メッセー・オブ・ホープ / デリック・ホッジ
10. アンバー / プライアン・ブレイド&ザ・フェロウシップ・バンド



2019. 1. 16 ON SALE

UCCQ-1090/1 ¥2,160(tax in)

史上最強のジャズ・レーベル、ブルーノート創立80周年記念

その輝かしい歴史と魅力がわかる最新版ガイドブック!!

『ブルーノート80ガイドブック』

収録内容：レーベル史上に燦然と輝く名盤10選 / レーベルを代表する伝説的ミュージシャン12選 / 特別寄稿「ブルーノートを担当し始めたころ」 / BNLA鼎談 / ブルーノート社長ドン・ウォズ 特別インタビュー / ブルーノートの現在そして未来 / ブルーノートの80年 マンガ早わかり 他

監修：原田和典

ウェブサイト「BLUE NOTE CLUB」
会員限定コンテンツへアクセス可能なシリアルコード封入



NOW ON SALE

UCZZ-20045 ¥3,240(tax in)

『ジャズ・ジャイアンツ・カレンダー 2019』も好評発売中

UCZZ-20046 ¥2,160(tax in)

ジャズの最新情報サイト OPEN!!



BLUE NOTE CLUB
bluenote-club.com

第1回 モダン・ジャズ黄金時代

ブルー・トレイン +3 ジョン・コルトレーン

UCCG-9411

50年代後半、マイルス・デイヴィス・クインテットの一員として研鑽を積んだコルトレーンが、ブルーノートに残した唯一のリーダー作。タイトル曲の壮大なブルースが特に名高く、本CDには現存する同曲の3テイクを完全収録。



〈パーソネル〉ジョン・コルトレーン(ts) リー・モーガン(tp) カーティス・フラー(tb) ケニー・ドリュウ(p) ポール・チェンバース(b) フィリー・ジョー・ジョーンズ(ds)
★1957年9月15日、ニュージャージーにて録音

サムシン・エルス +2 キャンボール・アダレイ&マイルス・デイヴィス

UCCG-9412

マイルスのミュート・ブレイが心に迫る「枯葉」で名高いモダン・ジャズの不朽の名盤。本CDには同曲の貴重なファースト・テイクも追加収録。ハンク・ジョーンズらリズム・セクションの繊細なサポートも素晴らしい。



〈パーソネル〉キャンボール・アダレイ(as) マイルス・デイヴィス(tp) ハンク・ジョーンズ(p) サム・ジョーンズ(b) アート・ブレイキー(ds)
★1958年3月9日、ニュージャージーにて録音

クール・ストラッティン +2 ソニー・クラーク

UCCG-9413

哀愁ある音色で日本に多くのファンを持つピアニスト、クラークの代表作。哀愁のメロディ、ブルー・ジーン・ピアノ、美しい美脚ジャズケットなど、全てが最高水準。アート・ファーマー、ジャッキー・マクリーンの好演も光る。



〈パーソネル〉ソニー・クラーク(p) アート・ファーマー(tp) ジャッキー・マクリーン(as) ポール・チェンバース(b) フィリー・ジョー・ジョーンズ(ds)
★1958年1月5日、ニュージャージーにて録音

モーニン +2 アート・ブレイキー&ザ・ジャズ・メッセンジャーズ

UCCG-9414

アート・ブレイキー率いるザ・ジャズ・メッセンジャーズ史上最高の人気盤。世界中にファンキー・ブームを巻き起こしたタイトル曲や、当時の音楽監督ベニー・ゴルソンの代表作「ブルース・マーチ」など名曲名演が満載。



〈パーソネル〉アート・ブレイキー(ds) リー・モーガン(tp) ベニー・ゴルソン(ts) ポビー・ティモンズ(p) ジミー・メリット(b)
★1958年10月30日、ニュージャージーにて録音

ヴィレッジ・ヴァンガードの夜 +4 ソニー・ロリンズ

UCCG-9415

屈指のインプロヴァイザーが残した傑作ライブ盤。ベースとドラムのみをバックに、圧倒的な力量で奔放なソロを紡いでいく。幾多の名盤を生んだニューヨークの名門ジャズ・クラブにおける歴史的な初ライブ・レコーディング。



〈パーソネル〉ソニー・ロリンズ(ts) ウィルバー・ウェア、ドナルド・ペイリー(b)、エルヴィン・ジョーンズ、ビート・ラロカ(ds)
★1957年11月3日、ニューヨーク、ヴィレッジ・ヴァンガードにてライブ録音

ザ・シーン・チェンジズ +1 バド・パウエル

UCCG-9416

パウエルがブルーノートに残した5枚の「アメイジング」シリーズの最終章。全曲オリジナルで、偉大な作曲家としての顔も窺える。名曲「クレオパトラの夢」は、思わず惹きこまれるミステリアスな魅力を放つ。



〈パーソネル〉バド・パウエル(p) ボール・チェンバース(b) アート・テイラー(ds)
★1958年12月29日、ニュージャージーにて録音

ソウル・ステーション ハンク・モブレイ

UCCG-9417

ブルーノートに最も多くの録音を残したテナー・サクソ奏者の最高傑作。極上のリズム・セクションをバックに、ワンホーンで伸び伸びとしたソロを披露する。その温もりある音色は、ジャズの親しみやすさを伝えてくれる。



〈パーソネル〉ハンク・モブレイ(ts) ウィントン・クレイ(p) ボール・チェンバース(b) アート・ブレイキー(ds)
★1960年2月7日、ニュージャージーにて録音

キャンディ +1 リー・モーガン

UCCG-9418

ブリリアントな音色で閃きに満ちた演奏を聴かせる神童モーガンが、弱冠19歳で残した生涯唯一のワンホーン・アルバム。ソニー・クラーク・トリオの好演をバックに、スタンダード・ナンバーをキュートかつヒップにプレイ。



〈パーソネル〉リー・モーガン(tp) ソニー・クラーク(p) ダグ・ワトキンス(b) アート・テイラー(ds)
★1957年11月18日、1958年2月2日、ニュージャージーにて録音

ザ・マグニフィセント・ サド・ジョーンズ +2

UCCG-9419

著名なジョーンズ3兄弟の次兄サドが、ブルーノートに残した生涯の代表作。「パリの四月」の名演をはじめ、穏やかなトランペットの音色から春の芳しい匂いが漂ってくる。マックス・ローチのブラッシュ・ワークも絶妙。



〈パーソネル〉サド・ジョーンズ(tp) ビリー・ミッチェル(ts) ケニー・バレル(g) バリー・ハリス(p) パーシー・ヒース(b) マックス・ローチ(ds)
★1956年7月9日、14日、ニュージャージーにて録音

イントロデュースィング・ ジョニー・グリフィン +2

UCCG-9420

シカゴ出身のテナー・サクソ奏者グリフィンが、NYデビューを果たした記念すべきブルーノート第一弾。小柄な体格から「リトル・ジャイアント」という愛称で親しまれたが、そのプレイはワイルドな魅力に溢れている。



〈パーソネル〉ジョニー・グリフィン(ts) ウィントン・クレイ(p) カーリー・ラッセル(b) マックス・ローチ(ds)
★1956年4月17日、ニュージャージーにて録音

UCCQ-9421

リー・モーガン Vol. 3 +1

早熟の天才トランペッターが残した名作揃いの初期作品群の中でも屈指の人気盤。全て同郷の先輩ベニー・ゴルソンのペンによるもので、亡きクリフォード・ブラウンへ捧げた美しい追悼曲「クリフォードの想い出」が絶品。



〈バージョン〉リー・モーガン(tp) ジジ・グライス(H, as) ベニー・ゴルソン(ts, arr) ウィントン・ケリー(p) ボール・チェンバース(b) チャーリー・パーシップ(ds)
★1957年3月24日、ニュージャージーにて録音

UCCQ-9422

カーティス・フラー Vol. 3

温かい音色で心地良さを醸し出す、ジャズ・トロンボーンの第一人者のブルーノート最終作。情熱的な「リトル・メッセンジャー」、ダンサブルな「クアントレイル」などラテン・テイストのオリジナルが印象に残る。



〈バージョン〉カーティス・フラー(tb) アート・ファーマー(tp) ソニー・クラーク(p) ジョージ・タッカー(b) ルイス・ヘイズ(ds)
★1957年12月1日、ニュージャージーにて録音

UCCQ-9423

ムーヴィン・アンド・グルーヴィン
ホルス・パーラン

右手にハンディキャップを抱えながらも努力を重ねてワン&オンリーのパーカッシヴな奏法を生み出したピアニストの初リーダー・アルバム。有名スタンダード・ナンバーを素材に、全編で力強いパーラン節を披露する。



〈バージョン〉ホルス・パーラン(p) サム・ジョーンズ(b) アル・ヘアウッド(ds)
★1960年2月29日、ニュージャージーにて録音

UCCQ-9424

ザ・ビッグ・ビート +1
アート・ブレイキー & ザ・ジャズ・メッセンジャーズ

ウェイン・ショーターを音楽監督に迎えて半年後に録音した傑作。ボビー・ティモンズ作のファンキー曲「ダット・デア」に加え、「レスター・レフト・タウン」などの新時代を感じさせるショーターのオリジナルが光る。



〈バージョン〉アート・ブレイキー(ds) リー・モーガン(tp) ウェイン・ショーター(ts) ボビー・ティモンズ(p) ジミー・メリット(b)
★1960年3月6日、ニュージャージーにて録音

UCCQ-9425

クレイジー・ベイビー +2
ジミー・スミス

キング・オブ・ジャズ・オルガンと呼ばれブルーノートの看板アーティストとなった絶頂期のスミスが、新レギュラー・トリオで録音したベスト・セラー。躍動的なマーチ「ジョニーが凱旋する時」は大ヒットを記録。



〈バージョン〉ジミー・スミス(org) クウェンティン・ウォーレン(g) ドナルド・ペイリー(ds)
★1960年1月4日、ニュージャージーにて録音

UCCQ-9426

テンダー・フィーリングズ
デューク・ピアソン

ピアソンが初期に録音した2枚のトリオ作品のひとつで、生涯の代表作として名高い。シングル・トーンを基調にした美しいタッチで、スタンダードの名曲を歌い上げる。「アイム・ア・フル・トゥ・ウォートン・ユー」が絶品



〈バージョン〉デューク・ピアソン(p) ジーン・テイラー(b) レックス・ハンフリー(ds)
★1959年12月16日、19日、ニュージャージーにて録音

UCCQ-9427

オープン・セサミ +2
フレディ・ハバード

天才トランペッターが22歳で放った鮮烈なデビュー盤。そのシャープなブレイは、当時のシーンに新鮮な感覚をもたらした。ティナ・ブルックス作曲のエキゾチックなタイトル曲と哀愁の「ジプシー・ブルー」が秀逸。



〈バージョン〉フレディ・ハバード(tp) ティナ・ブルックス(ts) マッコイ・タイナー(p) サム・ジョーンズ(b) クリフォード・ジャウイス(ds)
★1960年6月19日、ニュージャージーにて録音

UCCQ-9428

ムーズ
ザ・スリー・サウンズ

ブルーノートで約20枚のアルバムを録音したピアノ・トリオ。親しみやすいスタンダードを抜群のコンビネーションで演奏し、そのサウンドはいつも踊りたくなるほど楽しい。本作はキャッチーなナンバー満載の人気盤。



〈バージョン〉ジーン・ハリス(p) アンドリュー・シンプキンス(b) ビルドウディ(ds)
★1960年6月28日、ニュージャージーにて録音

UCCQ-9429

フライト・トゥ・ジョーダン +2
デューク・ジョーダン

哀愁の旋律家ジョーダンがブルーノートに残した唯一のリーダー作。全てオリジナルで構成されており、なかでも哀愁漂うタイトル曲と、仏映画「危険な関係」のテーマ曲「シジョヤ」が人気。サイドメンの好演も光る。



〈バージョン〉デューク・ジョーダン(p) デイジー・リース(tp) スタンリー・タレントイン(ts) レジー・ワークマン(b) アート・テイラー(ds)
★1960年8月4日、ニュージャージーにて録音

UCCQ-9430

アンダーカレント
ケニー・ドリュウ

53年のキャリア初リーダー録音以来7年ぶりとなった、ブルーノート・リーダー作。全曲オリジナルで固めており、フレディ・ハバードとハンク・モブレをフロントに据え、全編でアグレッシヴなソロを繰り広げる。



〈バージョン〉ケニー・ドリュウ(p) フレディ・ハバード(tp) ハンク・モブレ(ts) サム・ジョーンズ(b) ルイス・ヘイズ(ds)
★1960年12月11日、ニュージャージーにて録音

第2回 新主流派の時代

処女航海

ハービー・ハンコック

UCCQ-9431

60年代を彩る数々の傑作をブルーノートに残したハンコックの最高傑作。「海」をテーマにした壮大な叙情詩で、各々ストーリー性を持つ楽曲は斬新かつスタイリッシュ。ジャズの未来を予感させた名盤。



〈パーソネル〉ハービー・ハンコック(p) フレディ・ハバード(tp) ジョージ・コールマン(ts) ロン・カーター(b) トニー・ウィリアムス(ds)
★1965年3月17日、ニュージャージーにて録音

スピーク・ライク・ア・チャイルド +3

ハービー・ハンコック

UCCQ-9436

ハンコックのリリズムが表出した、ブルーノート史上最もロマンティックな1枚。珍しい楽器の組み合わせによる中低音の3管アンサンブルをバックに、美しいタッチで诗情溢れるソロを繰り広げる。



〈パーソネル〉ハービー・ハンコック(p) サド・ジョーンズ(fh) ビーター・フィリップス(b-tb) ジェリー・ドジョン(a-f) ロン・カーター(b) ミッキー・ローカー(ds)
★1968年3月6日、9日、ニュージャージーにて録音

アウト・トゥ・ランチ +2

エリック・ドルフィー

UCCQ-9432

ドルフィーが亡くなる4か月前に最高のメンバーを得て残した傑作。セロニアス・モンクに捧げた「ハット・アンド・ベアード」は、不気味な旋律と変拍子のリズムが錯綜しながら聴き手を迷宮へ誘い込む。



〈パーソネル〉エリック・ドルフィー(fl, as, b-cl) フレディ・ハバード(tp) ボビー・ハッチャーソン(vib) リチャード・デイヴィス(b) トニー・ウィリアムス(ds)
★1964年2月25日、ニュージャージーにて録音

ページ・ワン

ジョー・ヘンダーソン

UCCQ-9437

新主流派を代表するテナー奏者の初リーダー作。その才能を認めブルーノートに推挙したケニー・ドーハムによる「ブルー・ボッサ」と、ヘンダーソン自作の「リコーダ・ミー」という2大名曲を収録。



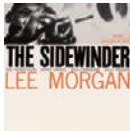
〈パーソネル〉ジョー・ヘンダーソン(ts) ケニー・ドーハム(tp) マッコイ・タイナー(p) アッチ・ウォーレン(b) ビート・ラロカ(ds)
★1963年6月8日、ニュージャージーにて録音

ザ・サイドワインダー +1

リー・モーガン

UCCQ-9433

療養のためジャズ・シーンから離れていたモーガンの鮮やかな復帰作にして、当時ポップス・ファンも夢中にさせたジャズ・ロックの金字塔。全米チャートの25位にまで上昇した大ヒット・アルバム。



〈パーソネル〉リー・モーガン(tp) ジョー・ヘンダーソン(ts) バリー・ハリス(p) ポプ・クランショウ(b) ビリー・ヒギンズ(ds)
★1963年12月21日、ニュージャージーにて録音

ハフニングス

ボビー・ハッチャーソン

UCCQ-9438

知的かつ先鋭的なプレイで60年代のジャズ変革期に貢献したヴィブラフォン奏者が、ハービー・ハンコック参加のピアノ・トリオをバックに吹き込んだ名盤。「処女航海」のもう一つの名演を収録。



〈パーソネル〉ボビー・ハッチャーソン(vib, marimba, ds) ハービー・ハンコック(p) ポプ・クランショウ(b) ジョー・チェンバース(ds, vib)
★1966年2月8日、ニュージャージーにて録音

ソング・フォー・マイ・ファーザー +4

ホルス・シルヴァー

UCCQ-9434

シルヴァー最大のヒット作にして、最高のファンキー・ミュージック。父親に捧げたタイトル曲は、ボサノヴァ風のリズムにブルージーなメロディが絡み、エキゾチックなムードを醸し出す。



〈パーソネル〉ホルス・シルヴァー(p) ブルー・ミッチェル、カーメル・ジョーンズ(tp) ジュニア・クック、ジョー・ヘンダーソン(ts) ジーン・ティラー、テディ・スミス(b) ロイ・ブルックス、ロジャー・ハンフリーズ(ds)
★1963年10月31日、1964年1月28日、10月26日、ニュージャージーにて録音

フリー・フォー・オール +1

アート・ブレイキー&ザ・ジャズ・メッセンジャーズ

UCCQ-9439

3管ジャズ・メッセンジャーズ史上、最もハイテンションなアルバム。ブレイキーが怒涛のように叩きまくるなかメンバーがひたすら熱いソロを繰り広げる。ボサノヴァ曲「ペンサティエヴァ」も人気。



〈パーソネル〉アート・ブレイキー(ds) フレディ・ハバード(tp) カートイス・フラー(tb) ウェイン・ショーター(ts) シダー・ウォルトン(p) レジー・ワークマン(b)
★1964年2月10日、ニュージャージーにて録音

ジュジュ +2

ウェイン・ショーター

UCCQ-9435

ショーターの初期キャリアを彩る3部作の第2弾となるワンホーン作。コルトレン・グループのマッコイ・タイナー、エルヴィン・ジョーンズらをバックに、色彩豊かな独自のサウンドを展開する。



〈パーソネル〉ウェイン・ショーター(ts) マッコイ・タイナー(p) レジー・ワークマン(b) エルヴィン・ジョーンズ(ds)
★1964年8月3日、ニュージャージーにて録音

アイドル・モーメンツ +2

グラント・グリーン

UCCQ-9440

ソウルフルなプレイで人気を博したグリーンが、新主流派の雄ジョー・ヘンダーソン、ボビー・ハッチャーソンと共演。スロー・ブルースのタイトル曲や名曲「ジャンゴ」のカヴァーが聴きどころ。



〈パーソネル〉グラント・グリーン(g) ジョー・ヘンダーソン(ts) ボビー・ハッチャーソン(vib) デューク・ピアンノ(p) ポプ・クランショウ(b) アル・ヘアウッド(ds)
★1963年11月4日、15日、ニュージャージーにて録音

ゲッティン・アラウンド +2

デクスター・ゴードン

UCCQ-9441

巨匠ゴードンのブルーノート最終作にして、「黒いオルフェ」の名演で知られる人気盤。当時本拠地になっていたヨーロッパから一時帰国した際に録音されたもので、艶やかで逞しい名人芸が味わえる。



〈パーソネル〉デクスター・ゴードン(ts) ボビー・ハッチャーソン(vib) バリー・ハリス(p) ポブ・クランショウ(b) ビリー・ヒギンズ(ds)
★1965年5月28日、29日、ニュージャージーにて録音

アリゲイター・ブーガル ルー・ドナルドソン

UCCQ-9442

60年代にソウル・ジャズ路線を進んでいたドナルドソンが放ったメガ・ヒット・アルバム。当時流行していたダンスビート“ブーガル”を取り入れたファンキーなタイトル曲は、世界的な人気を得た。



〈パーソネル〉ルー・ドナルドソン(as) メルヴィン・ラスティー・Sr.(cor) ロニー・スミス(org) ジョージ・ベンソン(g) レオ・モリス(イドリース・ムハマッド)(ds)
★1967年4月7日、ニュージャージーにて録音

ア・ニュー・パースペクティヴ ドナルド・バード

UCCQ-9443

ジャズとゴスペルが融合したスピリチュアルな傑作。マーティン・ルーサー・キング葬送の曲「クリスト・リデンター」をはじめ、セプテットに男女4人ずつの混成コーラスを加えた荘厳なサウンド。



〈パーソネル〉ドナルド・バード(tp) ハック・モブレイ(ts) ハービー・ハンコック(p) ドナルド・バード(vib) ケニー・バレル(g) アッチ・ウォーレン(b) レックス・ハンプリース(ds) コールリッジ・パーキンソン(voices director) デューク・ピアソン(arr)
★1963年1月12日、ニュージャージーにて録音

インヴェンションズ&ディメンションズ +1

ハービー・ハンコック

UCCQ-9444

ブルーノートにおいて、編成もサウンドの質感も異なる創意工夫に富んだリーダー作を連発したハンコック。本作ではピアノ・トリオにパーカッションを加え、複雑なリズム・パターンにアプローチ。



〈パーソネル〉ハービー・ハンコック(p) ポール・チェンバース(b) ウィリー・ボボ(ds, timbales) オズバルド・チワワ(マルチネス(cga, bgo, finger cymbals, guiro))
★1963年8月30日、ニュージャージーにて録音

ウナ・マス +1

ケニー・ドーハム

UCCQ-9445

温もりある癒し系の音色で魅了したドーハムが、若手サイドメンを得て躍動的な一面を披露する。ラテン・ビートが楽しいタイトル曲や、哀愁の旋律が沁みる「サン・パウロ」などの名曲を収録。



〈パーソネル〉ケニー・ドーハム(tp) ジョー・ヘンダーソン(ts) ハービー・ハンコック(p) アッチ・ウォーレン(b) トニー・ウィリアムス(ds)
★1963年4月1日、ニュージャージーにて録音

フィーリン・ザ・スピリット +1

グラント・グリーン

UCCQ-9446

トラディショナルな黒人霊歌を取り上げたグラントの最高傑作。慈しみを持ったスピリチュアルな演奏が見事。淡々としたりズムに乗り、多彩なフレーズを繰り出す「ジェロコの戦い」が特に名演。



〈パーソネル〉グラント・グリーン(g) ハービー・ハンコック(p) ブッチ・ウォーレン(b) ビリー・ヒギンズ(ds) ガーヴィン・マッソー(per)
★1962年12月21日、ニュージャージーにて録音

レット・フリーダム・リング ジャッキー・マククリーン

UCCQ-9447

60年代に入りシーンの先端を行く創造的な作品を次々と発表したマククリーンの代表作。アグレッシブな「メロディ・フォー・メロネエ」をはじめ、1曲を除き家族のために書いたオリジナルで構成。



〈パーソネル〉ジャッキー・マククリーン(as) ウォルター・デヴィスJr.(p) ハービー・リス(b) ビリー・ヒギンズ(ds)
★1962年3月19日、ニュージャージーにて録音

ボサノヴァ・ソウル・サンバ +3

アイク・ケベック

UCCQ-9448

ジャズメンによるボサノヴァ作品の中でも個性的な魅力を放つ一枚。ケベックの温い気を帯びたトーンはブルージーな匂いを振りまく。優美な「ロイエ」や官能的な「ファヴェウーラ」など選曲も秀逸。



〈パーソネル〉アイク・ケベック(ts) ケニー・バレル(g) ウェンデル・マーシャル(b) ウィリー・ボボ(ds) ガーヴィン・マッソー(chekere)
★1962年10月5日、ニュージャージーにて録音

ネヴァー・レット・ミー・ゴー +1

スタンリー・タレンティン

UCCQ-9449

公私にわたるベスト・パートナーとして有名だったスタンリー・タレンティンとシャーリー・スコット夫婦による人気盤。スタンダード、R&B、オリジナルと、バラエティに富んだ選曲が楽しい。



〈パーソネル〉スタンリー・タレンティン(ts) シャーリー・スコット(org) メジャー・ホリーJr., サム・ジョーンズ(b) アル・ヘアウッド, クラレンス・ジョンソン(ds) レイ・バレット(cga, tamb)
★1963年1月18日、2月13日、ニュージャージーにて録音

コンポーネンツ ボビー・ハッチャーソン

UCCQ-9450

新主流派を代表するヴィブラフォン奏者のブルーノート第2弾。代表曲「リトル・Bズ・ポエム」を含むハッチャーソンの書き下ろしと、ジョー・チェンバースによる現代音楽的オリジナルを半分ずつ収録。



〈パーソネル〉ボビー・ハッチャーソン(vib, marimba) フレディ・ハバード(tp) ジェームス・スターディング(fr, as) ハービー・ハンコック(p, org) ロン・カーター(b) ジョー・チェンバース(ds)
★1965年6月10日、ニュージャージーにて録音